

戊申

831
77
95

過眼録

七拾七冊之内
五拾参

五十三



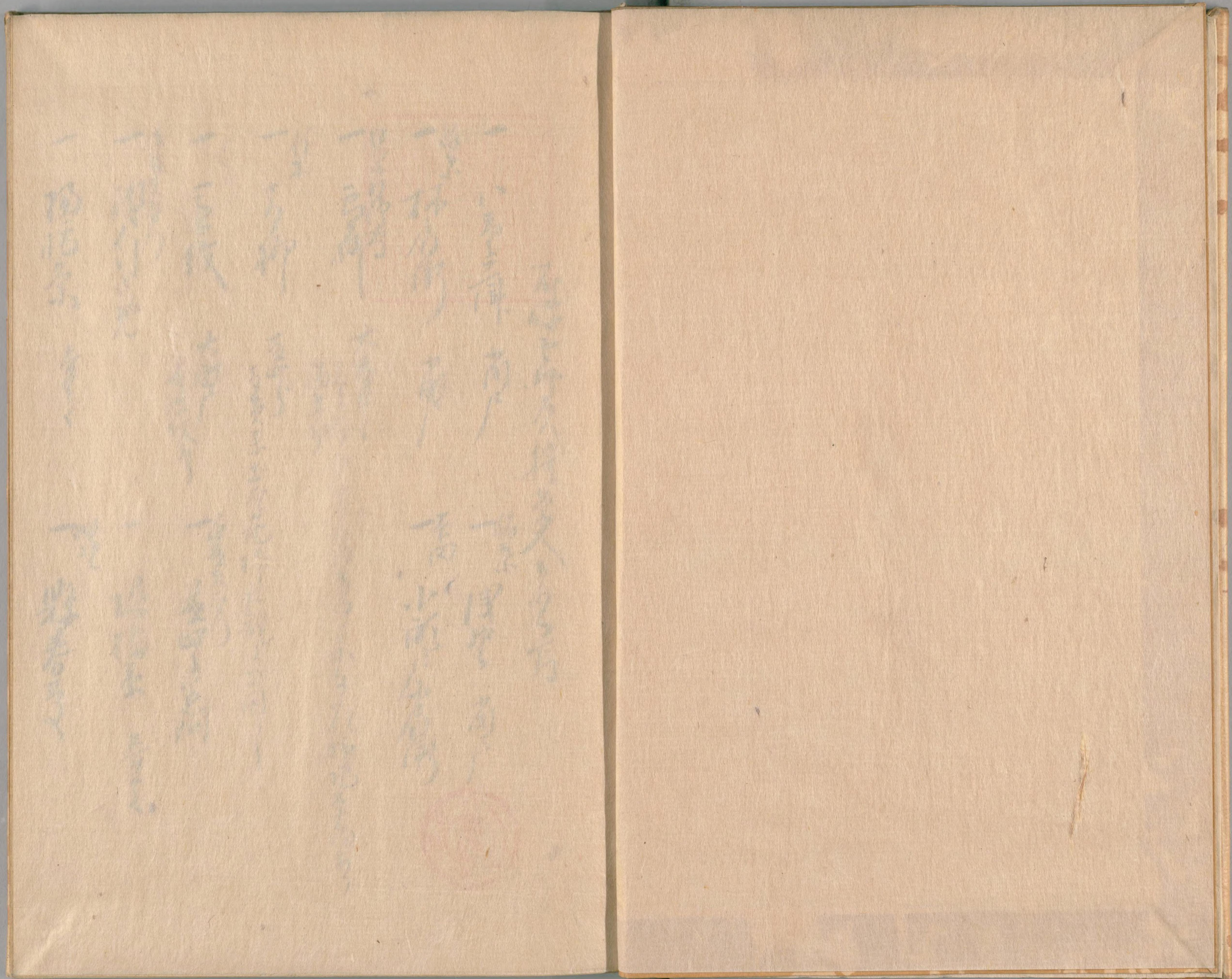
国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用

戊申過眼録
業

国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用

一 橋原

一 舟 香子文琳

一 川 梨子 田子

一 少 和子

一 才 山 山 田子

一 戸 三 郎 米子

一 坊 子 江子

一 一 宗 系

一 清子文琳

一 毛 子 田子

一 清 水 尚子

一 凡 子 田子

一 卯 花 田子

一 櫻 子 系

一 高 祖 系

一 一 系

一 橋 原 系

一 橋 原 系

一 山 子 田子

一 山 子 田子

一 田 子 文琳

一 拍 原 系

一 早 子 系

一 一 系 系

一 一 系 系

一 木 子 田子

一 一 系 系

一 一 系 系

一 一 系 系

一 一 系 系

一 一 系 系

一 一 系 系

一 道乃 道乃

一 晋 晋 康配 康配

一 公 公 止木 止木

一 少 少 面江行 面江行

一 一 一 子身白 子身白

一 一 一 野之玉 野之玉

一 一 一 神のうゑ 神のうゑ

一 一 一 流山 流山

一 一 一 若井 若井 若木 若木

一 一 一 本 本 陸木 陸木

一 一 一 公 公 唐福系 唐福系

一 一 一 中 中 八山 八山

一 一 一 一 一 子身白 子身白

一 一 一 一 一 鏡 鏡

一 一 一 一 一 子身白 子身白

一 一 一 一 一 流山 流山

一 一 一 平山 平山

一 一 一 冬山 冬山

一 一 一 冬山 冬山

紅毛日記何録

白二... 八... 廣... 分... 台... 子... 同... 在... 許... 許... 如



掛物

欲了庵... 一休... 是... 派

古... 後... 是... 派... 崔... 信

古... 是... 派... 子... 昂... 祝... 記

空

匠... 乾... 卷

匠... 散... 卷

匠... 毛... 卷

匠... 方... 卷

大... 卷

桐... 小... 卷

お... 飲... 卷



茶入

小束

天下一

束

茶境

黒茶境

ろく捲茶境

三冬山茶境

成木箱

肩衝

厚

本茶様

大束

尻衝

掉漆

中束

信楽

あけの升とて月

尚升とて茶境

華南茶とて月とて茶

有茶茶境

本守茶境

下付茶境

お漬茶境

銘茶とて茶境

茶砂

折多の

多片

黒多片

水指

虫物

今彫

彫

生茶桶

信楽

水指

彫

茶

古洞

虫

石了

信楽

洞

合子

花入

唐草

赤たりの菊

土の物

五

菊

花の菊

桐

桐の桐

子昂視

一印方

一七

一七

八

三

桐

備

青桐

龜火

客

毛の菊

吉川の人

古白沢の

湯谷の菊

花の菊

子昂の菊

竹の菊

石の菊

中野の菊

新川の菊

多賀の菊

八幡の菊

望月の菊

依道の菊

文政の菊

橋本の菊

松尾の菊

高田の菊

少田の菊

西田の菊

柳川の菊

二白の菊

早稲の菊

草花の菊

花の菊

子昂の菊

右中

園洞

子昂

沙名

休

口

口

口

草花

子昂

子昂

玉

福

右

中

可

吉

口

口

口

打寄り元

柳の枝

花の枝

花の枝

花の枝

花の枝

花の枝

花の枝

花の枝

柳の枝

花の枝

花の枝

花の枝

花の枝

文の枝

一 月三日... 柳の枝... 花の枝... 文の枝

一 柳の枝... 花の枝... 文の枝... 月三日...



一 常存の多功匠名は三印が最も有名なるに

一 二宮のりらに國のあはれなること通に錦を

一 延宝三年三月より一年を命に山中を赤梅と名に引はせし人

柳田 書文

多文 市川

多文 三島

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

延宝三年三月より一年を命に山中を赤梅と名に引はせし人

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

延宝三年三月より一年を命に山中を赤梅と名に引はせし人

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

多文 市川

年々其の訪訪の文を及年漸く其の極止方中打三志

折向 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

三志 古三志山 山崎 信永共志 三志 古三志の 三志 古三志

指し腕の厚さのりて平の尾流平に似たり
飾り亦

三枚の柄物より持出す 三枚の中を毎た丸巻を度 改め
あはれ

老白の信りし金言を 時心信取古信信布 世出信取持出す
竹井七郎信取取持出す 三子信取後信信布 以てし終
上をふりて在る事

一 古信信 古信信の事
一 古信信 古信信の事

一 左の信信信の事 左の信信信の事 往世信 世信も
右の信信信の事 右の信信信の事 伏見の信信信の事 伏見の信信信の事
仁左の信信信の事 仁左の信信信の事

一 又信信信の事 又信信信の事 又信信信の事 又信信信の事
不取の信信信の事 不取の信信信の事 不取の信信信の事 不取の信信信の事
二の信信信の事 二の信信信の事

一 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事

四子廿 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事
白糸 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事
印書 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事
信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事

一 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事
信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事

一 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事
信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事

一 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事

一 信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事
信信信の事 信信信の事 信信信の事 信信信の事

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 カタキ ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

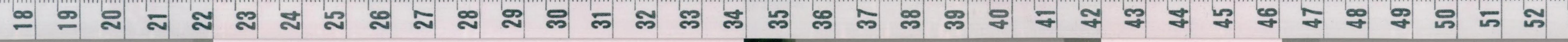
一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所

一 一海にわたる ありては 入所 一海にわたる ありては 入所



靜之與動之間 有進退二

肢體之動靜之間 有曲直分

吹竽之吹忽之間 有安危至

三神之俯仰之間 有邪正異

古先聖家焉求 問學焉 ○

古先聖家焉求 問學焉 ○

古先聖家焉求 問學焉 ○

御覽
御覽
御覽
御覽
御覽

御覽
御覽

831
77
95

国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用